



第4回

## へブル語講座アウカルト

### 【へセド】

「私たちが滅びうせなかつたのは、主の恵み（へセド）による。」（哀歌 3・22）

●ユダの民はエレミヤの預言を無視した結果、エルサレム陥落と亡国、そしてバビロン捕囚という憂き目を経験しました。それがどんなに悲惨な出来事であったかを記しているのが「哀歌」です。そのなかに、ユダの民がなぜ「滅びうせなかつた」のが記されています。

●「へセド」というへブル語を新改訳は「恵み」と訳していますが、新共同訳は「いつくしみ深い」と訳しています。また逆に「トウヴ」とい

## はじめに神は…

23 אבגדהזחטיכלמנסעפצקרששת

へブル語は、この二十三個の文字を使う。  
 右から左に書いていく。

25 תשרקצפעסנמלכיסחזזהדגבא

これを逆に読めば、  
 ちよと真ん中に、  
 ある言葉が浮かんでくる。  
**メレク 王様**  
 という意味の言葉だ。

10 תשרקצפעסנמלכיסחזזהדגבא

このメレクによつて左右十個ずつの文字が結び合はわさ



以下の箇所(3章)がそうです。「22 私たちが滅びうせなかつたのは、主の恵み（へセド）による。主のあわれみ（ラハミーム）は尽きないからだ。23 それは朝ごとに新しい。あなたの真実（エムナー）

は力強い。25 主はいつくしみ深い（トウヴ）」。●「へセド」というへブル語を新改訳は「恵み」と訳していますが、新共同訳は「いつくしみ深い」と訳しています。また逆に「トウヴ」というへブル語を新改訳は「いつくしみ深い」と訳していますが、新共同訳は「恵み」と訳しています。どちらが正しいのかという話ではありません。へブル語の修辞法の一つに、ある言葉やある文節を別の言葉で言い換えて、内容を深めたり強調したりする「パラレリズム」

●また「へセド」は、人と人との関係においても使われ、「愛情、親切、友情、誠実、忠誠」と訳されます。このように「へセド」は「愛」にかかわる概念だといえます。（銘形 秀則）

●「主のいつくしみ」はみな同義語とみなすことができるのです。厳密にはそれぞれに特有の意味がありますが、こうした修辞法によって、**約束に対する変わることはない神の真実、確固とした神の愛**が強調されているのです。

### 編集後記（史料・機関誌委員会から）

昨年を振り返り、「かつてなかった程の…」の言葉が何度となく繰り返された事件、災害が多かった事を思う時、マタイ24章が浮かびます。そして今、辛い思いの彼方に、愛の神様のご計画を信じて生きる事の大切さを思います。全国の教会が神様の愛の灯を輝かせ、教会に連なる一人ひとりがその光を携えて、生きる、委ねられた事を精一杯努める年でありたいと思います。「地域に開かれた教会」としての貴教会の活動をお知らせくださいませんか！ 本号3頁を参考に、写真、コメント付きでお願い致します。

発行者

宗教法人 日本神の教会連盟

東京都練馬区羽沢二丁目一九

練馬神の教会内

相原典之

沼 慎二

福岡県筑紫野市二日市北二丁目一八一六

日本神の教会連盟 二日市栄光キリスト教会

電話&FAX 〇九二(九二四)五〇九八